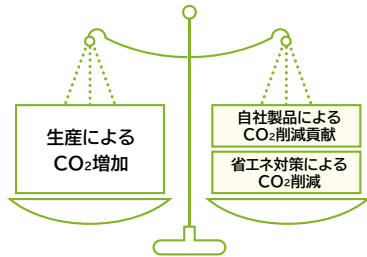


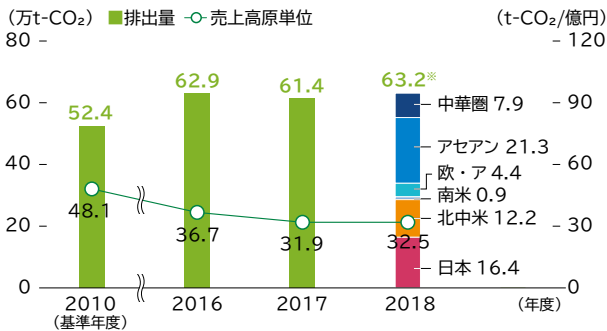
気候変動への対応

基本的な考え方

矢崎グループでは、グローバルで取り組むべき課題である地球温暖化に対し、事業所での省エネルギー対策によるCO₂削減に加え、当社のCO₂削減に寄与する製品の普及を進めることで、地球規模でのCO₂削減に貢献する活動を行っています。



CO₂排出量の推移(グローバル)



※各地域の排出量は、小数第2位以下を四捨五入しているため、合計値と必ずしも一致しない

生産事業所およびオフィスでの省エネルギー活動

矢崎グループでは、「2020年度までにグローバルのCO₂排出量を原単位で2010年度比20%削減」という目標を掲げ、省エネルギー活動に取り組んでいます。

具体的な取り組みとして、照明機器のLED化や、空調設備およびコンプレッサーの更新、稼働時間の最適化などの設備対策に加え、太陽光パネル設置による再生可能エネルギーの活用を行っています。また、従業員一人ひとりの意識付けとして、昼休みや休憩時の消灯、パソコンのECOモード活用も継続的に実施しています。

これらの取り組みにより、2018年度はグローバルで約6,500トンのCO₂を削減しました。

2018年度の売上高原単位は、グローバルで32.5トン-CO₂/億円で、2010年度比32.4%減となりました。国内矢崎グループにおいては24.2トン-CO₂/億円で、2010年度比22.4%減となりました。

CO₂排出量の推移(国内)



TOPICS

矢崎エナジーシステム(株) 沼津製作所の省エネルギー対策

静岡県沼津市にある矢崎エナジーシステム(株) 沼津製作所では、建物の老朽化にともない、建替えを計画的に進めています。2018年の建替え時には、再生可能エネルギーを効果的に活用するために、太陽光発電パネル2,508枚を屋根に設置しました。太陽光パネルによる年間発電量は730MWhで、CO₂排出量にして365トンの削減が期待できます。



太陽光発電パネル

また、生産設備には、「生産しながら、エネルギーを生み出す」仕組みを取り入れました。従来の電線撚線機は張力を調整するためのブレーキを使用しており、ブレーキ時に運動エネルギーが熱エネルギーとして排熱されるため、エネルギーロスが発生していました。新型の電線撚線機は回生ブレーキ※を採用し、従来捨ててしまっていた運動エネルギーで発電し、その電力を電線撚線機の駆動用補助電力として使用できるようになりました。これにより年間で約307MWhの電力量、CO₂排出量にして155トンの削減が期待できます。新型の電線撚線機は沼津製作所で効果を検証した後、ほかの工場にも横展開していく予定です。矢崎グループは今後もCO₂の削減に向けた活動を進めていきます。

※減速時の運動エネルギーを活用して逆にモーターで発電を行い、電気エネルギーとして回収または消費する仕組みのブレーキ

自社製品によるCO₂削減貢献

太陽熱利用機器や木質ペレットを燃料とした冷暖房機器はCO₂排出量削減に寄与する製品です。木質ペレット焚吸収冷温水機『バイオアロエース』は、カーボン・ニュートラル[※]の考えに基づいた冷暖房機で、木質ペレットの原料である木材の成長過程におけるCO₂吸収量を考慮することで、化石燃料の利用に比べて1台あたり年間約30トンのCO₂削減効果があります。

また、デジタルタコグラフなどの計装機器を車両に搭載することで、効率的な車両の運行管理や安全性の向上だけでなく、車両の燃費改善につながり、CO₂削減にも貢献しています。

これらの製品による2018年度のCO₂削減貢献量は10.2万トンとなり、2011年度からのCO₂削減貢献量は、累計で59.1万トンとなりました。

※カーボン・ニュートラル：燃焼や分解にともなって排出されるCO₂量と、自然界で森林や植物などに吸収されるCO₂量が同じ状態

グリーン物流の推進

国内矢崎グループでは、省エネ法に基づき、輸送エネルギー消費量原単位の削減活動に継続して取り組んでいます。2018年度の国内物流にともなうCO₂排出量は、前年度比2.5%減の1.8万トンとなりました。また、輸送量(トンキロ)あたりのCO₂排出量は前年度比4.0%減の118g-CO₂/トンキロとなりました。

2018年度は国内各所にて自然災害による交通網遮断、とくに西日本方面の鉄道被害に大きく影響を受けましたが、混載の強化、運行便数の見直しなどにより、CO₂排出量の増加を最低限に抑制することができました。

2019年度も継続してCO₂排出量の削減活動に取り組めます。

資源循環

基本的な考え方

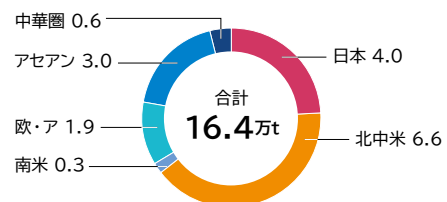
世界人口の増加や経済発展により、資源の枯渇などの環境リスクが高まっています。加えて、海洋プラスチックによる環境汚染が世界的な課題となっています。矢崎グループでは、5R[※]の考えを基本に、製造工程におけるロス削減やリサイクルの推進など排出物量の削減対策を通じ、循環型社会の構築に取り組んでいます。また、水リスクへの対応として、水の循環利用や節水対策など水使用の最小化に努めるとともに、工場排水が周辺環境へ影響を及ぼさないよう管理の強化を行い、水資源の保全に努めています。

※5R：Reduce/Reuse/Recycle/Refuse/Repair

排出物量の削減活動

矢崎グループでは、5Rの考えのもと製造工程におけるロス削減やリサイクルの推進、分別の細分化など排出物量の削減対策に取り組んでいます。2018年度の排出物量はグローバルで16.4万トンとなりました。また、国内矢崎グループの2018年度の廃棄物量は中国をはじめとする海外各国の廃プラスチック輸入制限の影響により、2010年度比11.2%増の5,488トンとなりました。今後も削減活動を継続していくとともに、世界的な課題のひとつであるプラスチックゴミ問題に対しても取り組んでいきます。

地域別の排出物量(万t)



廃棄物量の推移(国内)

